

令和元年度実践目標及び報告

同朋保育園

法人の 基本方針	項目	実践目標(P)	実践(D)	評価(C)	改善(A)分析課題の設定
利用者 支援	説明責任の徹底	・重要事項説明会(年1回) ・クラス懇談会(年2回) ・個別懇談会(年1回) ・保育参加(年1回)	・重要事項説明会(2月) ・クラス懇談会(5月・2月) ・個別懇談会(7月～8月) ・保育参加(2月)	・重要事項説明や建替え工事についての説明を丁寧に行い、保護者の不安や疑問に答えるようにした。 ・クラス懇談会、個別懇談会、保育参加等で保育園でのお子さまの様子を知ってもらう機会を設けた。	・今後も保育園の重要事項説明をするにあたり職員が周知し、質問があれば誰でも説明できるようにする。 ・保護者が参加しやすいように、予定を早めに知らせたくさん参加して頂けるよう配慮する。
地域との共生	子育て支援	・保育園の保護者や地域の子育て家庭への子育て支援の強化をはかる。	・子育て広場(年43回) ・育児講座等(年6回)	・新園舎になり、地域の子育て家庭の参加が増えた。参加された際には、保育園で育児相談を兼ねて、親子でゆったりと過ごす事ができた。	・東園舎も活用しながら地域の子育て支援を積極的に行っていききたい。 ・育児に困っておられる方の子育て相談や、心理の先生による育児講座などを取り入れていきたい。
	地域連携	・地域の中の保育園として地域の公園清掃などに参加し地域の方と触れ合う機会を持つ。	・地域清掃に参加する ・護国神社清掃(年2回) ・保育園周辺の清掃(月2回) ・地域の方とお茶会(年1回)	・地域の公園清掃に毎回3～4人程度参加できた。地域清掃を通して地域の方と触れ合う機会を持つよう意識した。 ・3月に地域の方を招いてお茶会を開いた。4, 5歳児と一緒に触れ合い遊びを楽しみ喜んで頂けた。	・地域清掃を通して、地域の方と触れ合う良い機会となっているので、今後も引き続き行っていきたい。 ・地域清掃に5歳児も参加する。 ・今年度も地域の方を招いてお茶会等の交流する機会を設け園児と触れ合いながら保育園を知ってもらうよう積極的に取り組む。
人材育成	職員の質の向上	・職員の質の向上を図るため、職場内研修や外部の研修に参加する。	・園内研修(年12回) ・園外研修(一人2回以上) ・心理士による育児相談(月1回)	・行事後の時間を使い、園内研修を実施した。 ・心理士の先生に来ていただき、すこやか保育園児や気になる子のケアや担任保育士のフォローをしてもらっている。	・園内研修の内容の見直しを行う。 ・園外研修参加後は全職員で共有する場を設ける。 ・研修を通して、保育の質の向上を図っていききたい。 ・今年度も引き続き、心理の先生に子どもたちの関りについて指導頂き、保護者対象の育児相談も行っていきたい。
		・働きやすい職場環境を目指し、業務改善をする ・新任職員に教育係を一人つけ、丁寧に指導する	・事務時間の確保 ・有給休暇取得率アップ(60%) ・新任教育係による新任職員教育	・職員が意識して、事務時間や休憩、有給休暇をとるようになった。 ・新任職員に教育係をつけることで、保育の内容や事務手続きなどの細かい部分も丁寧に指導することができ、新任職員も安心して一年間業務を終える事が出来た。	・今後も、業務の見直しを行い、職員が協力し合って働きやすい職場づくりを目指していききたい。 ・今年度も、引き続き新任教育係をつけ新任職員が安心して仕事のしやすい環境作りを作っていきたい。

令和元年度実践目標及び報告

同朋保育園

法人の 基本方針	項目	実践目標(P)	実践(D)	評価(C)	改善(A) 分析課題の設定
サービスの質の向上	保育内容・質の向上	・子どもの発達や特性に沿った適切な援助を行う。 ・子どもたちが自ら選んで遊べる環境を整え、成長・発達に応じた遊びの提供を行う。	・子どもが自ら選んで遊べるコーナー遊びの充実。 ・月齢に応じた手作り玩具の作成(年2回)	・新園舎に移行し、新しい玩具を揃えて、自ら選んで遊べるようコーナー遊びの環境を整えた。好きな遊びを選んで集中して遊ぶ姿が見られ定着している。 ・乳児クラスでは年齢にあった手作り玩具の作成を年2回実施した。	・子どもたちが選んで遊べるコーナー遊びを充実させた。遊んだものを元の場所に片付けてから次の遊びに移行できるように習慣づけていきたい。季節を意識したり、発達や年齢に応じた玩具の入れ替えや手作り玩具の作成をしていきたい。また、施設のハード面が充実したので、保育の質も同様に高めていきたい。
		・危機管理意識を高め、事故やけがを未然に防ぐ。	・ヒヤリハット会議(月1回) ・園外保育の引率・指導(園長・主任)	・ヒヤリハットメモの提出を促し、始めの頃は、職員の提出率もよかったが、後半になるにつれて提出率が低くなっていった。月1回のヒヤリハット会議は定着してきた。 ・慣れて動きが活発になるとともに、後半に受診するような怪我が集中した。	・ヒヤリハットメモの提出率を上げるため、引き続きヒヤリハットの提出を促していきたい。 ・公園マップ、園庭や保育室のヒヤリマップを増やしていく。 ・ヒヤリハットメモをもとに月1回のヒヤリハット会議を定着させ、危機管理意識を高めていきたい。
		・行事後のアンケートを実施し、利用者の意見を聞き取る。	・行事後のアンケート実施。(年3回)	・アンケートについては、行事毎に実施し、保護者の声を聞くよい機会となった。また、保護者の声に対する保育園の思いを保護者会で伝えたり掲示にて知らせた。	・引き続き行事毎のアンケートの実施や意見箱を活用することで、保護者の声に耳を傾け、よりよいものとなるよう取り組んでいきたい。また、アンケート後の課題については掲示のみでなく内容に応じて保護者会に諮り共に考えていく場を設けていきたい。
	食育	・“3つのしょく(食・触・植)”の実践を行う。 ・食育ボードを活用して、その日に食べた食材やその栄養を知っていく。 ・苦手なものも少しずつ食べられるように進める。	・野菜の栽培、自然体験(田植え、稲刈り、芋ほり)の実施。 ・クッキング保育の実施。 ・給食時にその日の食材の野菜を見たり、触れたりできる環境作り。 ・個々に応じた配膳量の加減をするなど、自ら進んで食べる事が出来るよう工夫。	・幼児クラス中心に野菜の栽培や、自然体験、クッキング保育など食に触れる体験を行い食に対する意識が高まった。 ・個々に応じた食事の量を加減したことで苦手なものも食べてみようとする姿が見られた。	・計画的に野菜の栽培やクッキング保育に取り組んでいきたい。 ・子どもたちが目で見て分かるような教材などを用いて取り組んでいきたい。 ・食事の量が少なめな子どもたちも、徐々に減らずに完食出来るようにしていきたい。 ・今後は地域や保護者に食の大切さの働きかけや情報提供を積極的に行っていきたい。